

木榮名誉教授（小児医学）に感謝したい。

前の項で少し触れたきょうだい関係の研究については、その一部のデータを、森下正康（和歌山大学）・河合優年氏とともに、日本教育心理学会第30回総会で発表することになっている。

【その他】 岩波講座・教育の方法2（1987）に、「文化」という小論が載っている。それは、日本の子どもの認知テストの成績の特徴を中心的素材として扱いつつ、学習と問題解決への動機づけの社会的・文化的背景

と、教授と学習の過程に関するethnopsychology（土着の心理学）の一面を構成しようとする試論であった。

また、久世敏雄（編）教育心理学（名古屋大学出版会、1988）の中に「発達と教育」という章が、村上英治（編）の教育心理学への歩み（川島書店、1988）の中に「家族関係と人間発達の領域の中で」という章が現れている。

（1988年8月19日）

## 研究経過報告（昭和62年8月～63年7月）

原 岡 一 馬

この1年間に行った研究活動の概要を述べることにする。

### I. 著書・翻訳・事典関係

著書の執筆については、長島貞夫編『子どもがみえる先生』、金子書房、1988、の中で、「自信を育てる学級一リーダーとしての教師の役割を中心に」、pp193-204、を分担執筆した。次に、久世敏雄編『教育の心理』、名古屋大学出版会、1988、の中で、「教育心理学と社会」pp33-44、を分担執筆し、さらに、村上英治編『教育心理学への歩み』、川島書店、1988の中で「態度変容研究の歩み」、pp239-257、を執筆した。

翻訳については、Henry Clay Lindgren、『Great Expectations - The psychology of money』William Kaufmann, Inc., 1980. を有斐閣より『お金の心理学』として翻訳出版した。

事典執筆については、東洋ら編『現代教育評価事典』、金子書房、1988、の中で、「社会性の評価」「社会的態度」の2つの事項について執筆した。

### II. 教育・心理関係研究論文および雑誌論文

研究論文については、「教師期待の認知と成績の帰属および動機づけ」名古屋大学教育学部紀要—教育心理学—、1987、Vol.34、1-13. を発表した。

雑誌論文としては、

- (1) 小集団コミュニケーションにおける情報獲得と処理、「特別活動研究」、明治図書、1987、10、No. 240、118-123.
- (2) 小集団における問題解決（一）、「特別活動研究」、明治図書、1987、11、No. 241、118-123.

- (3) 小集団における問題解決（二）、「特別活動研究」、明治図書、1987、12、No. 242、118-123.
  - (4) 小集団討議における傾聴行動、「特別活動研究」、明治図書、1988、1、No. 243、118-123.
  - (5) 小集団討議とフィードバック、「特別活動研究」、明治図書、1988、2、No. 244、118-123.
  - (6) 小集団におけるリーダーシップ、「特別活動研究」、明治図書、1988、3、No. 245、118-123.
- がある。

### III. その他

また、学会発表関係では、「青少年育成の問題と実態」を日本教育心理学会第29回総会に発表、「青少年育成の問題と実態 II」を日本社会心理学会第28回大会発表、さらに、日本心理学会第51回大会ワークショップ「説得的コミュニケーションによる態度変化と抵抗」の代表責任者をつとめ、日本教育心理学会第29回総会自主シンポジウムの「教師の学習指導としての力量を考える」において指定討論者をつとめた。

また、特定研究の一貫として、1988年1月に、「教師の成長を考える」というシンポジウムを開いた。現在、その結果をもとに、これに関する研究を進展させる研究に取り組んでいる。

この他、現在、青少年教育実践効果のための現場研究として、中都市、農山村の中で特定地区を選定し、教育効果を吟味するための過程観察を行っているところである。

（1988年8月30日）